

## 1:出席者

加藤<sup>a</sup>・大西<sup>b</sup>・片山・千葉・平林・大塚<sup>c,d</sup>  
(<sup>a</sup>:委員長, <sup>b</sup>:議長, <sup>c</sup>:オブザーバー, <sup>d</sup>:書記)

## 2:報告

- 科研費(データベース)申請を行った。(加藤)
- 核データ国際会議(筑波)に加藤・千葉・大林が出席、大林が発表を行った。核物理と核データの距離が近くなったと感じられる。次回は3年後にBNLが主催。(加藤)
- VBL COE 研究員 理研内藤謙一氏に決定。(大西)
- コーディングのチェックを Web エディタで行った。(平林・片山)

## 3:議論

- IAEA からの問合せ  
McLane(BNL)に CP-C/295(4元運動量移行のコードに関する提案)に同意する旨報告する。助言委員にも報告する。
- 今年度の報告書の構成
  - ・ 巻頭言 (Filippov)
  - ・ エディタ (大塚・近江)
  - ・ ウェブ計算システム (大塚)
  - ・ 国際シンポジウム (大林)
  - ・ 最近のデータ動向 (内藤?)
  - ・ IAEA 会議報告 (加藤・大林)
  - ・ 今年度データ収集実績 (吉田)
- コーディングチェック
  - a) D1735 (平林)  
Excitation Energy Spectrum の測定角度の広がりを THTL と DELTA-THTL で現すことにする。
  - b) D1745 (片山)  
加速器・検出器・誤差の評価に関する記述を加える。

## 4:次回

2001年11月26日 17:30 より